

「東御市まち・ひと・しごと創生第2期総合戦略の見直しについて」  
に係るまちづくり審議会委員意見・回答

【資料3-2】

No.	委員	ご意見	回答
1	齊藤委員	総合戦略P5について 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる 【新たな視点】 ・子育てをしながら男女ともに生き生きと働けるよう、多様なライフスタイルや制約に応じた働き方が実現できる社会環境づくりが必要です。 ⇒「男女ともに」を削除したらよいと思う。	【子育て支援課】 男女を限定しない表現が適切であるため、「男女ともに」を削除します。
2	齊藤委員	総合戦略P10について ・農作物ハウス栽培の団地化と新規就農者等への経営支援（農林課） …ハウス栽培の団地化を進め、一年を通じた栽培作物の振興により所得安定を図るとともに、新規就農者や認定農業者などに施設を貸し出す仕組みをつくり、営農定着及び経営の安定化を支援します。 ⇒このことは、非常によいことと理解します。団地の場所によっては、観光資源にもつながると考え、大いに賛成します。	【農林課】 いただいたご意見も踏まえ、ご期待に沿えるよう、団地化や農業者の経営支援等に努めてまいります。
3	宮原委員	P5 基本目標Ⅱ「とうみ」への新しい人の流れを作る ①【新たな視点】ということで、湯ノ丸高原高地トレーニング施設やワイン産業など新たな地域の価値を高めることも必要だと思う。 が、従来からある地域の「資源を新たな視点」で見直し、同時にその価値を高めることも必要だと思う。 東御市には自慢できる資源、市内に4つも日帰り温泉施設があり、海野宿、北御牧明神池周辺の公園、美術館などが素晴らしい名所が多々ある。これらを新たな視点に立って、より活性化するよう見直しを行い、これらの拠点を結びつけながら、回遊ルート、モデルコースをホームページ上に掲載したり、田中駅や観光協会、施設などにリーフレットとしておくなど、積極的に取り組むことが大事だと思う。	【商工観光課】 地域の魅力的な観光資源（温泉施設や湯の丸高原、海野宿など）とワイナリー、歴史的な史跡等を組み合わせ、「見る、知る、食す」を叶える観光周遊プランの作成に取り組んでいます。なお、観光情報ステーションにおいては、現在も観光パンフレットを配備していますがe-バイク（電動アシスト付き自転車）による周遊観光を楽しんでいただけるよう、新たに「周遊おすすめマップ（仮称）」を配置するなどの取り組みを進めます。
4	宮原委員	P5 基本目標Ⅱ「とうみ」への新しい人の流れを作る ② 東御市の観光PRの要である市のホームページを訴求力があり、かつ、魅力的なモノになるよう中味の充実を図ってほしい。 私は県外旅行する際、旅行雑誌には書かれていない、市町村のホームページから素晴らしい史跡見学場所を発見することがあり、必ず市町村の観光情報を探します。 それらにはいくつかのモデルコースにアクセス方法と移動手段別の時間が書かれており、情報雑誌を見るよりも詳しく丁寧に書かれている市町村もある。 東御市の現在のWEB情報ではホームページトップ画面「イベント・観光」をクリックし「イベント・観光」のページに入ると イベント・催し物「観光」観光施設・公園・温泉 イベント・観光(全カテゴリ)という4つのカテゴリに分け、煩雑化しすぎている。 観光 のカテゴリの一番下に一番知りたい情報観光のみどころ があるが、観光地へのアクセス方法などは全く書かれておらず、観光施設・公園・温泉のカテゴリに入らないと細かい情報が得られないという、大変面倒な検索方法であり、観光と観光施設は、合体すべきものだと思う。 クリックすると、すぐに観光ガイドに誘導され、「おすすめ観光コース」など旅行者の視点に立って分かりやすく興味をそそるようなホームページの作成を、以前から提案させていただいているが、一向に改善されない。 ウェブサイトに関するモニターの意見募集をおこなったり、イベントカレンダーも一面に同時に表示された駒ヶ根市、モデルプラン掲載の塩尻市や、県外の観光サイトを参考に分かりやすい、魅力的なものを作成していただければありがたい。	【商工観光課】 ホームページの観光情報でおすすめスポット、魅力ある描写、アクセス方法等の内容を充実させ、見やすさ、検索のし易さという観点でも構成の見直し等を行い、来訪者ニーズに沿った来訪者の増加につながる情報発信に努めます。
5	宮原委員	P10 具体的な施策 農作物の付加価値向上 ① 農作物の付加価値だけでなく、それらを売る販売方法に関しても、もっと販路を広げる取り組みが必要だと思う。 情報誌や情報サイトでは高速道路サービスエリアで野菜販売も話題になっており、「東部湯ノ丸上り線」での少し大がかりな販売をしたら良いと思う。 私も寄ったことがある「三芳PA上り線」ではスーパーマーケット並みの品ぞろえに近隣の住民も買いに来るといふ盛況ぶりや、「ドラぶら」やメディアなどへの掲載など宣伝も十分に行ったうえで販売に力を入れてはどうかと思う。	【農林課】 農産物直売所は、JA等への系統出荷とは異なり、規格外の生産物でも生産者が自ら価格を決めて、採れたての新鮮な農産物売ることができ、生産者の所得向上に直結することが重要なコンセプトであることから、サービスエリアでの常設の直売所を設けた場合、このことを担保することが前提となります。 市内には、道の駅雷電くるみの里に農産物直売所があり、平成15年9月の共用開始以来、年間約40万人、累計約800万人の皆様にご利用いただいております。 メディアなどを利用した宣伝については、現在、国土交通省が取りまとめている「道の駅ガイドブック」や関連のパンフレットなどへ掲載しているところですが、今後につきましても、雷電くるみの里の運営者側とも協議する中で、東御市産農産物の宣伝に努めてまいります。

No.	委員	ご意見	回答
6	阿部委員	<p>P11  地域全体の活性化を積極的に図りの部分ですが、地元の間人も楽しめるように、という意味の表現をしてほしいです。今のこの表現は、かっこよく見えますが、住む市民への思いやりの心が無い。特に、史跡や自然などの魅力を楽しむフットパスを整備することの中では、地元に住む人でさえ行ってみたいことが無いことも多い現状で、市民へ目を向け、人づくりをしながら、もちろん、観光、市外からの集客も必要ですが、皆さんのように、地元ワインがおいしいと言って飲める市民はまだまだ、すく少くないです。市民を置き去りにした観光施策、ワインづくりでなく、市民も一緒に味わえる(記念日には飲めるなど)魅力発信の表現にしてほしいです。  ここでダメなら、どこかに表現してください。</p>	<p>【6次産業化推進室】  市といたしましても、地域の史跡や自然などの魅力を発信するためには、まずは市民が魅力を知っていただくことが重要だと考えます。  現在、市民への認知度向上やワインに親しんでいただくため、市民の方に気軽に参加していただけるような、ワインセミナーを企画しております。  いただいたご意見を踏まえ、地域の魅力を市民に周知を図るとともに、表現についても配慮してまいります。</p>
7	阿部委員	<p>P17  男女ともにに限定するのはどうか。この頃の「多様性」も多く言われることもあるので。意味は、しっかり分かりますが。</p>	<p>【子育て支援課】  男女を限定しない表現が適切であるため、「男女ともに」を削除します。</p>
8	阿部委員	<p>P21  課が、地域づくり支援室だけであるが、もっと故郷を愛する、忘れられないという気持ちを持ってもらうために、日ごろから学校関係の生活の中に取り組んでいただくよう、教育課も記載したほうが良いのではありませんか。</p>	<p>【企画振興課】  子どもたちのふるさと教育につきましては、市民や地域が主体となり、行政と協働で推進すべきものと考えますので、地域と行政との橋渡しを担う「地域づくり支援室」で取り組む事業としてご理解願います。</p>